



安養寺便り

弘法大師坐して宣説き門跡の理を宣す

第41号
平成27年
10月吉日



秋季彼岸会法要を終えて!!!

初秋は、台風接近の影響を受けて秋雨前線を刺激しうっとうしい雨の日が多くて、お彼岸の法要を大変心配しておりました。が、ご本尊さまのご庇護のもと秋晴れに恵まれ、沢山の檀信徒のご参拝を頂き、無事終了することが出来ましたことを心より感謝申し上げます。次第で御座います。

当山に於きましては、お彼岸を迎えるにあたりまず第一に、観音堂の上がり口の両側に手摺りを付けさせて頂き、大変上り下りが楽になったと皆さんに喜んで頂きました。次に玄関の上がり口の踏み板が、シロアリにやられ腐りかけていたのを修復工事が出来ましたことと、今年の大雪の節客殿の北側の屋根に付けられているトコが破損したのを直させて頂きましたことをご

報告させて頂きます。

次に、本堂薬師堂の大屋根修復工事の進捗状況は、国、県、市の文化庁から補助金の決定が下り、設計者の予算を十月の議会に提案提出され、通れば総額予算の八十五パーセントから五十パーセントの補助金が拠出されることですが、当初当山の出入り業者にお願ひした予算が一千万円に対して、文化財の予算は、二千万円設計予算でまとめること、当方はただ補助金のパーセントが上がることを祈るばかりでございます。

檀信徒各位におかれましては、今まで通りのご協賛を賜りますようお願いを申し上げます。次第で御座います。

当山の次の予定の秋の大祭に向け邁進してまいる覚悟にござります。

採燈大護摩供の修行、絵画展開の開催、お抹茶席や焼きそばのお接待、なんとと言っても紅葉狩りに是非とも御来山賜りますようお願いを申し上げます。

時節がら御身ご自愛くださいませようよう、心よりご祈念申します。

弘法大師 88ヶ所霊場
東方山安養寺
520-3015
栗東市安養寺88
Tel 077-552-0082
Fax 077-552-9151
URL touhouzan-anyouji.com
E-mail to-anyouji@nifty.com

上げます。
住職、合掌礼拝



観音堂手摺設置



玄関上がり口



客殿雨樋取替修理

昨年度 客殿屋根瓦・壁修理



本堂薬師堂修復 完納志納者一覽

(敬称略)

- 十五口 一坪 徹夫
- 十四口 武田 博
- 十一口 福本 経子
- 十口 上村 寛
- 十口 久木 伊勢雄
- 十口 浅野 重雄
- 十口 秦 良子
- 十口 大角 光子
- 七口 横山 英雄
- 七口 後藤 千恵子
- 七口 羽後 富美子
- 七口 山上 高治
- 七口 金子 舜次郎
- 七口 加賀田 住江
- 七口 西尾 純一
- 七口 小島 頼信

平成二十七年 本堂薬師堂修復管理 基金志納者

(敬称略)

- 十口 大山和伸
- 五口 岡本光代
- 五口 高尾 屹
- 三口 吉羽弘子
- 三口 石井 幸保
- 三口 野玉 幸

一口

一・五口

- 大西敦司
- 四方隆子
- 川村多恵子
- 出井安正
- 紙崎和子
- 小林友子
- 瀬戸重雄
- 村宗雄
- 石田敬一
- 熊谷純一
- 金井万平
- 兵井康久
- 川會弘美
- 吉津政昌
- 櫻原孝司
- 坂中房子
- 田口光雄
- 滝口敏彦
- 利藤力丸
- 時岡秀男
- 晶貴正巳
- 有友喜久子
- 今泉治武
- 千田二三夫
- 田中祐二
- 岩元俊子
- 米谷訓
- 林美照
- 岩崎皓二
- 松田義勝
- 安田昭
- 中西新次
- 長岡保子
- 山下滋之
- 山中佳代子
- 中村吉章
- 長濱敏弘
- 西脇敏弘
- 平田恒美
- 薦田孝一
- 大野直
- 吉津政昌
- 川本憲作
- 山田憲作
- 山本勝彦
- 山口久一
- 木下繁一
- 宇野洋一
- 石井康允
- 杉本茂
- 金澤利美
- 田中克和
- 鈴木政人
- 藤井宏之
- 岩井宏之
- 岡本ツヤノ
- 橋本律雄
- 湯浅三郎
- 宇田美佐子
- 福井登志子
- 坂田加代子
- 大杉心み枝
- 矢代真佐博
- 堂ノ尾勇人

- 沖宮秀勝
- 西川富子
- 井筒可子
- 吉廣恵子
- 細川忠成
- 衣川俊成
- 加藤房之
- 勝部利之
- 赤木弘浩
- 藤本敬子
- 佐藤美智子
- 野口正之
- 久保昭子
- 高岡昭子
- 坂口善行
- 北村貴子
- 田邊夕子
- 河原邦祐
- 栗田俊一
- 岡田敏広
- 西村弘幸
- 藤原宏
- 合田俊彦
- 山本勝彦
- 山本久一
- 木下繁一
- 宇野洋一
- 石井康允
- 山田憲作
- 杉本茂
- 金澤利美
- 田中克和
- 鈴木政人
- 藤井宏之
- 岩井宏之
- 岡本ツヤノ
- 橋本律雄
- 湯浅三郎
- 宇田美佐子
- 福井登志子
- 坂田加代子
- 大杉心み枝
- 矢代真佐博
- 堂ノ尾勇人

秋彼岸会追悼文

天高く気爽かにして心澄み身また清らかなり。伏して惟るに法身大日如来といっば体性常住にして無始無終なり、理智普遍にして不來、不去なり。法界宮の尊主なるが故に、四曼の諸仏皆加被を蒙り、智処域の教示なるが故に五部の聖衆悉く威神を輔く。然れば即ち、信心湯仰の水、澄むときんば、五智円明の月、明かに影を宿し、観念修行の床静かなるときんば、三妄迷闇の靈、忽ちに消える。

本日、琵琶湖湖南の淨刹・東方山安養寺觀音堂において、謹んで香花・茶菓・百味・五菓の稀膳を備へて、ご参詣の檀信徒の諸々靈の供養をせんが為、秋彼岸会を厳修する。

安養寺の寺名のとおり安養とは九品安養の臺をさす尊き仏の呼び名にして仏の世界最上の位なり。この世を此の岸、此岸といい、仏の座す安養の世界を彼岸と呼ぶ。されど死をもつてこの彼岸に到達するのみならず、生きたこの身において彼岸に到るには、仏法の船に乗る必要あり。仏法の船とは、一つ、布施、一つ、持戒、一つ、忍辱、一つ、精進、一つ、禪定、一つ、智慧の六つの徳目なり。六波羅蜜のみ教えにして彼岸の岸へと渡る仏道の要諦なり。真言宗祖弘法大師はかけがえないこの命を生かし。この世においての暗闇を払いのけ光明に照らさ

れし真実の道「即身成仏」を説き示し賜うものなり。

先祖を敬い、祖先の靈を供養し、共に日頃は多忙にして心身ともに諸々の浮きことに翻弄される現実を見定めて、秋彼岸の好期を期に弘法大師のみ教えとともに如来大悲のもとに身を安んじて日常の事柄を精進努力して心の廻心をはかるを願うものなり。

さて、わが国の仏教音楽の源流は声明・梵唄なり。安養寺熊谷俊亮住職は青年僧時代から音楽を極めなканずく玄妙な真言声明のみに接し、一途に研鑽を重ねられる。身も心も洗われて、密厳浄土はかくなりとの思いを深くされる。このたびの法要においても讚・伽陀などの曲へ一山住侶とともに惜しみなく、その真隋を披瀝。低音から宮・商・角・徵・羽の五音階がひとつひとつとけ合う自然の音楽に満堂の参詣者の内面は深くゆさぶられる。誠にその微妙な音色は、多くの音楽がもつ王の王にして、まさに仏心の顕現を叶うものなり。さらに加えて大師流慈苑講・山下登美宗大梵詠を筆頭に講中の面々の詠えるご詠歌の調べは常に仏道賛歌、情操を涵養して仏の道えと誘い玉えるを喜びとす。

伏して乞ふ。家内安全 諸人快樂

乃至法界 平等利益

平成二十七年九月二十三日

京都府向日市寺戸町

龜光庵住職

土口哲光敬白



これからの紅葉風景



沢山の檀信徒各家参拝風景



土口哲光僧正の分かり易いご説法

平成二十七年度(二回目)

本堂薬師堂修復管理基金

志納者(前頁より続く)

(敬称略)

- 一口 林秀樹、豊田克彦、落藤一己、有藤史康、桑田允康、高村廉、井川智子、中野比佐、川野利通、浅野正彰、今原正彰、鏡原裕美、松村千代子、丹羽昌彦、村岡みちる、本郷みちる、原口道子、豊澤怜子、廣瀬吉彦、若林宗一、金村悦子、福田悦子、杉本二朗、松井功七、栗坂只雄、北森芳雄、桑山由喜子、松山下英三、森圭助、石川定彦、田村幸司、寺本幸代、亀田勝代、山田俊行、塩田賢一郎、青木優一郎、八木悦代、貝原光敏、松本幸雄、小松民子、中西節子

- 中島伸芳、小笠原正敏、吉長幸夫、土井貞子、大村勇、岩間義明、窪田啓子、山本喜三雄、佐藤木兵、金久秀司、木寺攸一郎、丹下篤則、堀内芳春、片山啓介、向晟光、久保さくえ、酒井清明、細谷卓爾、岩浅憲資、原川博善、中本謙二、南章、田中サダ子、岩谷鉄雄、父川慧始子、河田雅光、越北哲男、川北陽子、高畑幸子、後藤博之、福家義弘、岡田孝一、大倉省三、宮本博、大西正信、山本悦子、山下陽一、宮野節久、大久保綾子

- 末武隆成、横田達昌、守武秀憲、田上隆生、畑中治、井家上英樹、今池匡子、久木道夫、平井順廣、小谷晶則、小濱正行、多田昭雄

ご案内

十一月八日 秋の大祭
柴燈大護摩供修行
八十八ヶ所霊場巡り

十二月三十一日 除夜の鐘

一月一日 修正会
午前十一時
午後一時

一月二、三日 修正会
午前十一時

毎月一日は 本尊月並祭併せて写経をやっておりますのでご参加下さい。